

富浦をゆたかな地域に

富浦協働つうしん

市民主体の「富浦の地域づくりを考える会」を開催

市役所大会議室で八月二十七日、第一回「富浦を考える会」が開かれました。ゆたかな地域づくりに向け、30代〜70代の市民37名が、参加しました。

参加者は、千葉工業大学の鎌田教授から、地域づくりのポイントなどの話を聞き、六班に分かれ、「富浦の宝と課題」について、活発な意見を出し合いました。その結果、富浦には、すばらしい自然環境、歴史・文化、及び特産品があることを、改めて見直す姿が見られました。

次回は、九月下旬、今回出された意見を絞り込み、活動イメージを出し合います。



富浦の宝と課題について話し合う参加者

住んでよかった、住み続けたい富浦を目指して、一緒に地域づくりを進めましょう。多くの方々の参加をお待ちしております。



参加者の声

多田良在住
遠藤さん

「富浦の地域づくりを考える会」に参加し、私の知らない富浦を見つめました。南無谷地区の「法華崎」です。機会を見つけ、家族と一緒に訪ねたいと思います。

課題をまとめた参加者



「富浦の宝」

- Aさん 大房岬、法華崎、小浜海岸等の自然が豊かである。
- Bさん 枇杷、カーネーション、菜花等の特産品がある。
- Cさん 里見氏の歴史、文化遺産がある。



多田良海岸キャンプ場
(自然とのふれあいの場)

「富浦の課題」

Dさん 高齢者の買い物が不便。
Eさん 若者の働く場所が少ない。
Fさん 子供が安心して遊べる場所が少ない。

富浦の現状

人口の減少

富浦の人口は、年々減少し続けています。その結果、今後十年間で、現在の九十%弱にまで減少すると予測されています。富浦の課題と今後の対応を皆んなで一緒に考えてみませんか。

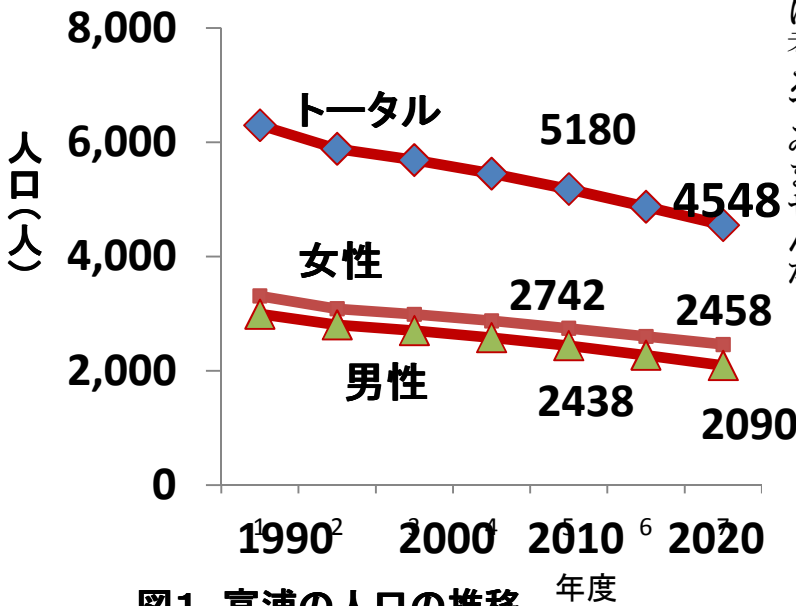


図1. 富浦の人口の推移

「地域づくりを考える会」では

みんなて話し合い、
みんなて考えます。

富浦の良さを見つけて、活かすことを考えましょう。(持ち味の伸長)
富浦をもっと元気にすることを考えましょう。(課題の解決)

富浦のこころも宝

袈裟掛け松(跡)から望む富浦湾

八月、フーフーと汗をふきながら、袈裟掛け松(跡)を目指しました。登りついた先には、キラキラと輝く富浦の海が広がっていました。



富浦の昔ばなし

日蓮の袈裟掛け松

豊岡の坂下から南無谷へ通じている小三郎坂の、西側の小高い所に、「袈裟掛け松」と呼ばれた老松が生えていました。

その松は、およそ四十年前に猛威をふるった松喰い虫に枯らされてしまったため、いま跡をとどめるものは、明治三十一年(一八九八)に豊岡区が立てた、『日蓮上人袈裟掛松』の石碑のほかは何も残っていません。しかし、袈裟掛け松にまつわる伝説は、日本の仏教界に新しい風をふき込んだ有名な日蓮聖人と、かわり合いがあつたために、今もなお語りつがれています。

建長五年(一一五三)の五月、日蓮は法華經を広めるために、鎌倉へ渡ろうとこの地に来ました。しかし、風波が激しく渡航することができません。日蓮は高い山(後の世に法華塚と呼ばれる)に登り、生えていた小さな松に袈裟を掛け、海が鎮まるよう祈禱なさいました。

やがて、法力により風波の鎮まった海上を、日蓮は鎌倉めざし渡って行かれたのですが……。

歲月は流れて七百年。日蓮が袈裟を掛けた松は、枝葉が広がり、九坪ほどの土地を覆う立派な大木になりました。潮風を受けて育った幹や枝の姿は、また格別の美しさがありました。枯れて幻の袈裟掛け松になってしまったのは、たいへん残念なことでした。

著者 生稲謹爾氏